

ドローンロボット技術サービス産業創出事業 第1回事業評価結果

令和6年度第1回事業評価委員会を開催しました。

1. 目的

事業評価委員会は、外部の学識者等5名から構成されています。
専門的な立場から当該事業への意見、評価を求めることを目的としています。
事業評価委員

委員長	秀島栄三	教授	名古屋工業大学大学院
委員	児島正幸	ユニット長	名古屋商工会議所
委員	山下哲央	統括マネージャー	中部圏イノベーション推進機構
委員	青山美代子	課長	中部経済産業局
委員	加藤智子	担当課長	愛知県
連携先	名古屋市		
事務局	(公財)名古屋産業振興公社		

(順不同敬称略)

2. 開催日時

第1回 令和6年5月7日(火)

3. 会議内容

本事業の計画等に対する評価、意見交換

4. 評価結果

第1回評価	評価基準	評価ポイント	評価
妥当性	事業計画	計画の内容、スケジュール、運用手順、進捗管理は妥当か。	A
	広報・相談	公開情報内容、広報活動の具体的な目標、事業に関する正確な情報提供、申請希望事業者への適切なサポート体制が整っているか。	A
	選定基準	選定基準が明確かつ客観的であり、事業の性質や目的に適切に関連し、申請内容を適切に評価するための要素が含まれているか。	A
		総合	A

評価記号

S(想定を大きく超える)、A(想定以上である)、B(想定どおりであるが、もう一工夫あると良い)、C(内容を見直し、次計画に修正案を活かす)

5. 事業への意見・助言

審査員からの助言・意見	審査員からの助言・意見への対応
<p>これまでの問題点を解決しようと、進め方や基準のあり方が改良されている。</p>	<p>頂きましたご助言・ご意見を踏まえて引き続き当事業の改善に努めます。</p>
<p>施設の応募について、前年度の経緯もあり伸び悩むことが予想される。 応募数の向上ならびに補助対象事業者と施設とのマッチングをどう図るかが重要だと思われる。 ドローン活用の有効性について周知を働きかけていくことが重要かと思われる。</p>	<p>ドローン活用の有効性について情報収集を行い、昨年度までの補助事業申請者へ情報提供するなどフォローを行うほか、ドローン事業についてホームページへの掲載や、メルマガ配信、関連企業への訪問などで、積極的にPRし、応募数の増加を目指します。</p>
<p>本年度計画において、昨年度実施結果からの学びが反映されており、より確度の高い実施計画となっている。 事務局の手間は増加してしまうがKPI達成に向けて丁寧に各事業者と議論してください。</p>	<p>過去の経験を踏まえつつ、引き続き現状把握に努め、より事業者にとって効果のある事業になるよう努めます。</p>
<p>最終的な目的がドローン実装の推進、産業振興にあり、ビジネスモデルまでイメージできる実装事業となると良い。ターゲットが建物所有者なのか、不動産、建築設計、リフォーム業者になるのか6月4日開催予定のセミナー第2部の事例紹介に期待したいところ。 ドローンの活用範囲が施設点検に限定されているのは、やむを得ないとはいえ、活用領域についてさらなる官民の知見を集約できるとよい。</p>	<p>今回の補助事業をきっかけとして、より多くの企業に、ドローン実装やビジネス化へ新たに取り組んでいただけるよう、また、ドローンの活用領域を拡張できるよう、有用な情報の発信に努めます。</p>

<p>実装事業終了後、ビジネスにあたっての課題分析もできるとよい。</p>	
<p>事業者にとっては今後のドローン活用に向けたデータ取得や経験値を上げるよい機会になる。なるべく多くの事業者に(当補助金を)活用してもらいたい。</p> <p>そのためには施設の確保が肝と思われるため、状況を見て築10年以上や名古屋市内といった条件を見直すなど柔軟に対応していただきたい。</p>	<p>当事業をより広く周知するよう今後も努めるとともに、各方面にヒアリングを行い、施設の確保に向けて工夫してまいります。</p>